

職員紹介

Q1. 財務専門官の志望動機

Q2. 業務内容

Q3. 職場の印象・雰囲気



総務課
大江 美咲
Ooe Misaki

財政と金融に興味があったため、興味があることを専門にしながら、地方や国に貢献できる財務専門官に魅力を感じたからです。また、本省庁へ出向する機会があるので、幅広い業務を経験することができるという点にも惹かれました。

会議の準備や防災訓練の実施、異動時における資料の更新など幅広く、様々な業務を行っています。総務部門の業務では、部門内だけではなく理財部門や管財部門など他部門との関わりも多く、庁舎内を歩き回っていることもあります。

普段作業している執務室では、静かな雰囲気の時もあれば、話し合いの声でざわざわしている時もあり、居心地良く感じています。また、他部署の方との関わりを通して、全体的に優しい方ばかりで働きやすい職場だと感じています。



経済調査課
酒井 小雪
Sakai Koyuki

財務局では、財政や金融など様々な業務を経験した上で自分の適性に合った分野の専門性が高められるという点に魅力を感じました。また、国の機関でありながら地方に根差しており、国という広い視野で地域に寄り添い貢献するという役割に惹かれて志望しました。

経済調査課では北陸地域の経済動向について調査し、その調査結果を記者発表やホームページで公表しています。私は個人消費の4業態（コンビニエンスストア、ドラッグストアなど）と新車販売を担当しており、企業にヒアリングを行い、北陸地域の消費動向について調査をしています。

頼りになる方が多い印象です。わからないことや困ったことがあると親身に対応してくださり、働きやすい職場だと感じています。また、休暇やテレワークを取得しやすい環境が整っており、プライベートの時間も充実させることができます。



特別主計実地監査官付
新美 雅尚
Niimi Masanao

北陸以外の他府県でも暮らした経験から、地域によって経済事情が異なることを体感しました。これをきっかけに、地域の経済動向の調査や分析、それぞれの経済や社会に合わせた国有財産の有効活用に関心を持ったため、財務専門官を志望しました。

事業に割り当てられた予算が効率的に執行されているかを調査しています。調査結果を財務省へフィードバックすることで、翌年度以降の予算編成に反映されます。また、地方公共団体や国の出先機関が年度内に使いきれなかった予算を翌年度に繰越すことに対して、承認や事後的な検証を実施しています。

穏やかです。皆さん真面目に業務をこなしていますが、話しかけると優しく対応してくれます。上司にも遠慮なく相談にのけるので、風通しの良い職場だと思います。



統括国有財産管理官付
平野 蒼生
Hirano Aoi

財政・金融・国有財産など、地域の社会や経済に直接関連する業務を専門的に行うことができるという点に惹かれ、志望しました。幅広い業務を行っているため、様々な経験をすることができ、自身の成長につながると考えました。

普通財産の管理処分に係る業務を担当しています。主に、委託業者に対する、未利用国有地の管理指図や、期間入札での国有地の売却を行っています。また、エリアマネジメント業務では、地域との連携強化を目指して、地方公共団体にヒアリングなどを行っています。

優しい方が多い職場だと思います。私の所属する部署では、コミュニケーションをとりながら業務を行うことを大切にしているので、疑問点なども聞きやすい環境です。雑談などもたまにします。



金融監督第二課
本田 伊吹
Honda Ibuki

当初は多くの人の役に立ちたいという思いから、漠然と公務員を志望していました。財務局の寄附講義を通じて、財務専門官の業務は財政や金融の分野から地域全体に貢献できることを知り、経済や金融に興味があったこともあり、財務専門官を志望しました。

金融機関の監督業務をしています。金融機関からの届出を受理し、中身の確認を行ったり、財務内容に係る資料を分析し、ヒアリングを行い、内容をまとめるなどといった業務を行っています。

優しく親切な方が多い印象です。アドバイスの的確で、どんなことでも答えていただけます。また、同じ部署の方はもちろんのこと、業務上の関わりがない方でも、声をかけてくださるので、アットホームで働きやすい雰囲気です。

Q4. 入る前の不安
→実際入ってみて

入局前は仕事がこなせるか、うまくコミュニケーションをとることができるかといったことが不安であり、とても緊張していました。実際に働いてみると、分からないことは何でも教えてくれる優しい職員がたくさんいるので、安心して仕事に取り組んでいます。

一番大きな不安は仕事をしっかりこなせるかということでした。入局してみると、周りの方がよく気にかけてくださり、困ったことがあっても相談しやすい雰囲気でした。今でも周りの方に色々とお助けいただきながら仕事をしています。

寝坊しないか心配でしたが、今のところしていません。今後も規則正しい生活が送れるように、適度に休息をとっていこうと思います。

朝起きられるか非常に不安でした。入局後は毎朝気合でなんとか起床しています。

業務内容が専門的なので、ついていけるか心配でした。配属先では、教育担当の先輩職員が教えてくださるので、教えてもらいながら、無理なく業務内容を覚えていけます。

Q5. プライベート面
での変化

デスクワークが続いたり、テレワークで長時間家の中にいると体が怠けてしまうので、散歩などの軽い運動をするようになりました。また、休日出勤はなく、年休も取得しやすい職場なので、外出や旅行の計画を立てていきたいと思っています。

早寝早起きが習慣になりました。休日でも早く起きるようになったので、ショッピングをしたり、おいしいカフェを探したりと、新しい趣味ができました。また、ニュースをよく見るようになり、社会情勢の変化に敏感になりました。

規則正しい生活を送るようになり、お肌の調子が良くなりました。また、仕事後や休日といったプライベートの時間を貴重に感じるようになり、趣味に打ち込むようになりました。

平日は週2回ほどスポーツジムに通い、休日は社会人チームでハンドボールをするなど、運動でリフレッシュするようになりました。また、一人で過ごす時間が増えたので、スポーツ観戦、サウナ、カラオケ、美術館巡りなど、あらゆる趣味を一人で満喫するようになりました。

公務員宿舎で、生まれて初めての一人暮らしをしています。初めは食事や掃除、洗濯などの家事を一人でやらなければならないのが大変でしたが、慣れた今では、一人の自由な時間を楽しんでいます。

Q6. 記述試験
アドバイス

憲法を中心に対策をしていましたが、試験本番では解答に自信が持てなかったため、多肢選択でも入念に勉強していた財政学を選択しました。記述試験でも複数科目を準備しておくことで、わからない問題が出題されたときにも焦らず対応できます。

まずは選択問題を最優先に勉強し、記述問題は年明けごろから勉強し始めました。それまで身につけてきた知識を整理し、解答のキーワードや構成の理解に努めました。問題演習では、本番よりも5~10分ほど解答時間を短く設定し、時間内に最後まで書ききることを徹底していました。

経済学を選択しました。記述試験では、特定の分野に関して記述する必要があるため、山を張るのは難しいと思います。そのため、記述試験は多肢選択試験の延長だと考え、まずは多肢選択試験の問題をしっかりと解けるようにしていました。そのうえで、不安のある分野について、記述試験前に重点的に復習していました。

憲法の問題を4月から1日1題解き、いざというときに備えて、経済学と財政学についても分野を絞って勉強しておきました。広い試験範囲に対応できるようにしておく必要があるため、試験日から逆算した計画的な勉強を心掛けてください。

過去の試験問題を分析することで、出題頻度が高い単元と低い単元に分けることができるので、最初に出題頻度の高いものから取り組むといいと思います。自分の書いた意図が、相手に伝わるような回答作成を意識すると、得点につながりやすいです。

Q7. 合格を目指す
受験生へ

公務員といってもたくさんの職種があるので、いろいろな職種を知り、これだ!と思うものを見つけることをお勧めします。自分で納得できるものが見つければ、最後まで頑張り続けるモチベーションになると思います。

公務員試験は長期戦です。勉強ばかりではなく、適度な休息や趣味の時間をとり、心身ともに調子を崩さないことが大切だと思います。焦る気持ちもありますが、自分なりのペースで頑張っていればと思います。

公務員試験の勉強をしていると、一人の時間が多くなりがちです。そういう時は良くない思考に陥っていてもなかなか気づくことができません。そのため、息抜きも兼ねて、他の人と会ってみたり、オンラインでも良いので話してみてください。面接練習も意外と息抜きになります。

試験から採用まで様々な想定外の事態が起きることもありますが、諦めずに自分の力を出し切れるよう頑張ってください。将来自分がどんな仕事をしたいかイメージすることでモチベーションも保ちやすくなると思います。

説明会やワークショップなど、職員の方と直接会ってみることをお勧めします。職場の雰囲気が良いことも志望のポイントになりますし、職員の方をよく観察することで、求められる人物像も見えてくると思います。